



題字 井口 文章
再刊 第473号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2025

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：間近に迫った合唱祭
写真部創部以来初の全国大会へ
二面：立川高校新聞委員会と交流しました！
探究びくずが地元のラジオに出演

努力の結晶を声に乗せて 合唱祭 直前に迫る

「今までの練習の成果を会場にぶつけて」

来週火曜日に実施される合唱祭。今年度は例年と異なり、立川のホールでの実施となるが、初めての会場でも最高の歌声が響くよう、各クラスで練習が進められてきた。今号では、そんな合唱祭の運営に携わってきた実行委員長の声、クラスの練習の様子をお伝えする。



限られた時間の中でも最高の合唱を目指して一生懸命練習してきた

「楽しんで良い思い出に」

いよいよ来週に迫った合唱祭本番。昨年の2学期半ばごろから今まで半年間中心となつて準備を進めてきた合唱祭実行委員長の岩井凜和さん(2H)に、これまでの活動を振り返って話を聞いた。

初めての合唱祭に向け全力

1年生のとあるクラスは、合唱祭実行委員が主となつて練習を進めているそう。普段は芸術教科で音楽を選択している、授業の際に行っている発声練習なども積極的に取り入れているという。このクラスの実行委員に意気込みを聞くと、「冬休み頃からクラスの皆に課題曲を聞いてもらつて早めに練習を始めて、合唱祭練習期間？2月から本格的に練習を始めることができていたので、その成果を見せたいです！」と話してくれた。

中央委員会 「田村淳のT a M a R i B a」収録に参加 今回の企画は「高校生居酒屋」

中央委員会では、地域の課題の解決や、地方創生に向けたプロジェクトを行う「田村淳のT a M a R i B a」に今年度も引き続き参加している。

今年度のメンバーは中央委員会の深瀬千帆さん(2C)、中村月さん(2H)、金子優歩さん(1A)、小貫日菜子さん(1J)の4名。今回はVTRでの出演となり、プロジェクトについてのプレゼンVTRの撮影が1月25日(土)に錦城新校舎7階ラウンジで行われた。



チーム一丸となって準備を積んできた

市には共働き家庭が多く、1人の時間を過ごしている子どもが多いという現状を知ったそう。そんな中、親も子どもも悩みを解決できる、そして安心していられる場所をつくるという2点を解決する方法として高校生居酒屋を立案した。メンバーの深瀬さんは、「強いコミュニケーションだと、窮屈に感じることも多くあると思うので、気軽に言葉を見つけてほしい。」

(蘭)

61 回生震災学習② 雄勝・大川小編 学びを私たちの防災へ

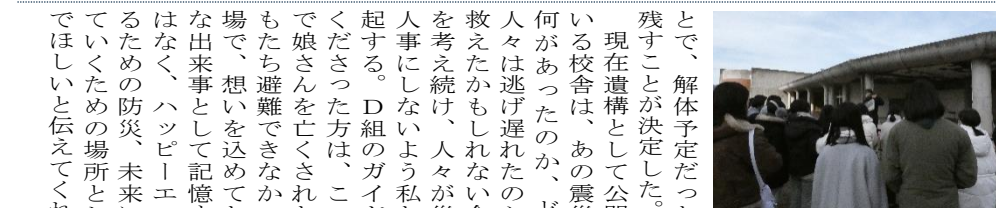
61回生修学旅行1日目は、クラスごとに東北の被災地を巡り、震災やその後の復興について学んだ。第二弾では、大川小・女川エリアを巡ったクラスの様子をお届けする。

教訓を伝える憩いの場

D組は宮城県石巻市雄勝町の雄勝ローズファクトリーガーデンを訪ね、津波や防災についての話を聞いた。津波で流された雄勝の憩いの場として開かれたガーデンでは、人々に震災の教訓を伝え、自分の命を自分で守ることができ

未来へとつなげる場所に

その後、同じ石巻市の旧大川小学校を訪れた。海から3.7kmも離れたところにあった大川小の地域は、遡上して校舎の屋根まで届くような大きな津波に飲み込まれて学校の建物のほとんどが崩壊し、その周りにあった民家も流された。



ガイドさんの話に耳を傾ける

とで、解体予定だった校舎を残すことが決定した。現在遺構として公開されている校舎は、あの震災の日何があったのか、どうして人々は逃げ遅れたのか、その救えたかもしれない命のことを考え続け、人々が災害を他人事にしないよう私たちに喚起する。D組のガイドをしてくださった方は、この大川小で娘さんを亡くされた。子どもたちが避難できなかったこの場で、想いを込めてた悲痛な出来事として記憶するのではなく、ハッピーエンドになるための防災、未来につなげていくための場所として学んでほしいと伝えてくれた。

(英)

写真部都大会優秀賞 来夏総文祭へ 「自分が楽しいと思える写真を」

受賞部員にインタビュー

昨年12月15日(日)から都政ギャラリーにて第47回東京都高等学校文化祭写真部門中央大会が行われ、写真部の



創部初の快挙を成し遂げた3人

学校写真展への参加が決まった。写真部が全国大会・関東大会に作品を出品するのは初めてだ。優秀賞に選ばれた榎本さんの作品名は『あの日』。顧問の門前先生に「面白いと言われた写真で入選できて良かったです」と笑顔で話してくれた。モノクロの写真で昔ながらの雰囲気を出しつつ、見た時にストーリー性が出るような写真を意識したという榎本さん。榎本さんは「目ざから写真をたくさん撮っていきながら、自分が楽しい、美しいと思える写真を撮っていきたいと思っています」と意気込んだ。

「写真部の思い出を賞に繋げられたのがすごく嬉しかったです」と話すのは、海老さん。作品『その先』のコンセプトは、未来や希望を据えたイメージだという。撮影では、その日の朝に門前先生から教え

(蘭)

むらさき草

世の中の流行りに対し、つい「ふん、今はこんなのが人気なのね。でも私は」と他と違いたく感を出して遠目に見ることがある。が、流行りに乗って他の人と盛り上がるのも実は好きだ。この矛盾のせいで、たいてい旬が過ぎた頃に手を出して良さに気づいて後悔する。最近「シルバニアファミリー」でそのような気持ちになった。しばらく前、シルバニアファミリーの人形をカフェに連れていったら、お洋服を着せ替えたりして、SNSで共有する通称「シル活」が中高生から大人まで流行した。少期をシルバニアと共に過ごした私は、皆が楽しむのを嬉しくなる反面、「私はずっと可愛いと思っていたのに、なんで今更流行っているのよ!」と少し腹立たしくてブームを遠目に見て、敢えて触れなかった。しかし、シル活にハマり始めた友人と遊びに行った時、おもちゃ屋で光輝く「それ」をみつけた。一瞬で心奪われた。運命だと感じた。そう、キラキライヌのファミリーだ。子どもの頃には無かった、優しい茶色の犬。可愛い犬。私は犬派だ。ペルシヤネコの赤ちゃんを買った友人につられて、キラキライヌのファミリー、買っちゃおうかな...と思った。しかし何と悲しいことか、財布が厳しく泣く泣くその場を離れた。いまだに手が届かないキラキライヌだが、ネットで見ると見るたびキラキライヌへの可愛い!という想いが、萌え、上がる。今ではシル活を楽しむ人を、SNSで眺める楽しさも手に入れた。今や立派なシル活中だ。この楽しさもずっと前に知ったものだった。少し鮮度が落ちた頃、いつも後悔しながら流行していた波を追いかける。実に難儀な性格である。

(英)

バレンタイン企画 卒業生と一緒にフラワーアレンジメント制作

2月13日(木)放課後、卒業生(36回生)の新井理恵さんを招き、食堂前スペースでフラワーアレンジメント制作が企画された。錦城探究活動のキャリア教育で夏休みに目黒で新井さんが営む花屋を訪問する機会があり、参加した2名の錦城生によって始まった企画だ。

訪問を終えた2人は今回の探求を形にしたいと思い、後藤先生に相談をしていたという。その後、新井さんのワークショップに足を運んでいく中で、錦城でも企画をしようと新井さんから提案があったという。ワークショップという形ではお金がかかってしまうところ、新井さんは完全ボランティアという形で無償で



理想的な構図を求めて 試行錯誤を重ねる

お花を提供していただけたそう。今回はバレンタイン企画として可愛さを重視して、リボンやバルーンを多く使い、花壇下にある鏡に花を写らせる構成を意識して花を縦にして生けたそう。新井さんが活け方を指導し、試行錯誤しながら皆で飾り付けた。メンバーの小林周祐さん(2C)はまず行動してみることの重要性が分かったという。また、制作していく中で空間をデザインする力が身についたと思うと話す小林さん。「見ているようで見えないものに気づく場面も多くあって、実際にやってみることが大切だと思いました」と語ってくれた。

(蘭)

立川高校新聞委員会と交流

2月13日(木)、都立立川高校新聞委員会が錦城に遠征取材に来てくれた。ここでは、交流会の様子をお伝えします。

(編集部共同取材)

錦城のトイレを見学！

クラスの合唱祭練習も終わった放課後、立川高校新聞委員会2年生の菅野なるみさんが遠征取材に来てくれた。立川高校新聞委員会は、今年の総文祭も代表として、吉祥女子高校と一緒に3校で出場した。立川新聞委員会では「立高新聞」を作成し、錦城高校新聞と一緒に全国大会出

場を続けている。立高新聞では現在、「高校トイレ選手権！」特集を連載中。「たまに臭い」「昭和っぽい」などの生徒からの意見をきつかけに、様々な観点から学校のお手洗い事情を掘り下げていく企画だ。他校も参考にすべく、こ

れまでも都立西高、昭和第一高校を取材したそうだ。早速トイレを見学してもら



生徒会室で会話が弾む
今後の新聞づくりへの励みともなった

現地で学ぶ修学旅行

ちようどスキー修学旅行が終わったところ。せっくな

のでこちらからは立高の修学旅行事情を聞いてみた。菅野さん曰く、「昨年は京都・奈良だったんですけど、今年は沖縄に行きました」とのこと。

立高新聞ではすでに第一弾として学校の経営企画室に、2月に予定されているタイル補修工事について苦勞や課題を取材し、新聞を発行した。

「過ごしやすい学校生活にするために裏で走り回っている方がいることを忘れず、感謝しながら過ごしていきたい」(立高新聞2025年第七号)と記事をまとめた菅野さん。今後の立高お手洗い事情について「早く全面改修してほしいです」と思いを語った。

立高新聞では、そのような学習の場としても生徒の記憶に残ったことだろう。

他にも普段学校新聞を作っている者同士、様々な話が盛り上がった。また一緒に取材活動ができるよう、より一層新聞づくりに励もうと思った交流だった。

さて、このような活動が気になった生徒もいるのではな

いだろうか。錦城高校新聞委員会編集部では、錦城高校新聞を盛り上げる新入編集委員を大募集だ。少しでも興味を持ったなら、是非気軽に新校舎7階奥の編集室に立ち寄ってほしいです。編集部員一同お待ちしています！

錦城生がラジオで語る

探究びーず 地元のラジオ出演

昨年12月18日(水)に放送された、東久留米・小平・清瀬の地域コミュニティラジオ才局「TOKYO 864 くらめら」の番組「コノマチ★サークル」に、校内有志団体「びーず」の生徒と奥嶋先生、西塚先生が出演した。番組では、探究授業や「びーず」の活動が取り上げられた。番組に出演した生徒の一人、高瀬菜さん(2C)に、当日の様子を聞いた。



活動の成果をラジオで報告
学校 HP より引用

今年度小平野菜の販売の傍ら、卒業生とコラボして企画からブレンドまで生徒が手掛けた「錦茶」。中心メンバーだった高瀬さんは、番組で活動のきっかけやフレイバー選びなどの経過について話したという。番組パーソナリティーの藤村さんが、パッケージフレイバーをとてほめてくれた、と高瀬さんは嬉しそうに笑った。

この収録を通して「自分自身を振り返ることができた」と高瀬さん。「やってきたことが他の人に評価されて、こうやって呼んでももらえるという活動ができてうれしいです」と笑顔を見せた。

「やってよかったです」高瀬さんは、「やりたいと思ったことに賛同してくれる人がいて、それを先生が校外につないでくれて、卒業生の池谷さんも積極的に進めてくれた。先生方や探究のメンバーにはとても感謝しています」と話し、「心意気を持った先輩を語ってくれた。(瑞)

梅ニューに新しくお弁当が追加される予定であることが分かった。チーフの藤田麻美子さんによると、お弁当には「ゆり」と「さくら」という二つのパターンがあり、それぞれ肉十魚など5品程度おかずが入っているとのことだ。内容は日替

食堂前の券売機を見た人もわらせてもらうことができて嬉しかったです」とここまで

今後のびーずの活動として、ペットボトルの水に入れて飲める粉末茶の校内販売も検討しているそうだ。「せっかくできた縁なので、後輩にもつなげて一緒になかやうた

いと思つています」と高瀬さん。錦城祭来場者アンケートや、企画を相談した農家さんなど、それを大事にしていきたいと、これからの意気込みを語ってくれた。(普)

【お詫びと訂正】
第470号表面のむらさき草にて誤りがありましたので、ここに訂正しお詫び申し上げます。
誤「envy(=邪悪な)」
正「envy(妬み)」
また、「邪悪な」はevilでした。
誠に申し訳ありませんでした。

BREAKING NEWS

直近に起きた錦城のニュースをお届け！
情報をお持ちの方は、新校舎7Fの編集室まで！
あなたのニュース、お待ちしております！



11月～2月初旬、錦城の入試期間中に昇降口にて。61回生がスキー修学旅行に行っている間、書道同好会の1年生と3年生が制作した。制作者の一人である白畑礼さん(1F)は、「受験生の人に向けて応援の気持ちを込めて書きました」と思いを語った。



→2月1日(土)、軽音楽部で一年生のためのライブが行われた。9組のバンドが曲を披露し、会場を盛り上げた。「うまく盛り上がってよかったです」と石原光太郎さん(1B)。

医療の発展に挑む

2月14日(金)に、232教室で北里大学健康科学部医療検査学科の助教博士であり、錦城43回生の服部精人さんによる「科学の面白さと医学の奥深さについて」というテーマで講演会が開催された。

幼少期からキラキラ光るものが好きだったという服部さんは、自身の興味を通じて「光に関係する科学への道を進むことを決意したそうだ。現在、遺伝性パーキンソン病や「α細胞に関連した研究をしている。服部さんは北里大学の魅力について、医療業界でのブランド力があり、高度な研究力と海外の医療系大学と合同で行うチーム医療演習という実践力を兼ね備えている大学



血管可視化装置。
講演中に一人ひとり体験した。

だで紹介してくれた。講演会では、実際に医学で使用されている「静脈血管の可視化装置」と「血液型判定検査ラム」を参加者が体験し、医療技術についての知識を深めた。

参加した生徒は「自分の静脈を外側から見たのは初めてで医療の進歩に驚かされました。北里大学の研究やチーム演習などにも興味を持ち、自分の将来進む進路を考える良い機会になりました」と話してくれた。

服部さんは「色々なことにチャレンジしてみてください。一見将来に関係ないような体験でも、後に役に立つようなことが沢山あります。」と、錦城生に向けてメッセージを送ってくれた。(燕)

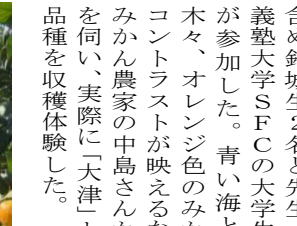
食堂に2種類の弁当が登場！

食堂前の券売機を見た人もわらせてもらうことができて嬉しかったです」とここまで



4月からは特設カウンターが設置される予定だ

梅ニューに新しくお弁当が追加される予定であることが分かった。チーフの藤田麻美子さんによると、お弁当には「ゆり」と「さくら」という二つのパターンがあり、それぞれ肉十魚など5品程度おかずが入っているとのことだ。内容は日替



大きく甘い「大津」の収穫を体験した

訪れたのは小田原市JR早川駅から車で10分ほどの中島さんのみかん農園。記者を含め錦城生2名と先生、慶応義塾大学SFCの大学生2名が参加した。青い海と緑の木々、オレンジ色のみかんのコントラストが映えるなか、みかん農家の中島さんから話を伺い、実際に「天津」という品種を収穫体験した。

もぎたてのみかんは香りが広がり、皆口々に「甘い！」「皮が剥きやすい」「おいしい！」と歓声を上げる。中学の時の資料集で見た、斜面を活用した運搬モノレールも実際に見ることができ、貴重な体験となった。「最近是小さいみかんが好まれていますが、大きくなっても十分甘い品種なので、大きいみかんも食べてくださいいね」と笑顔で中島さんは説明してくれた。

みかん収穫体験後、岸さんが「Ice cream」を持ってきてくれて、皆で実食した。記者は初めて「もうごしミルク」をいただいたが、濃厚なうまみと甘味に感動。岸さんは、大学1年生の時に所属していたボランティアサークルで愛媛県のみかん農家を手伝ったことをきっかけに農業に興味を持ったそうだ。農業法人でイベントや商品のプランニングを経験し、ブランドを自分です立ち上げて、現在活動されている。岸さんに学校でもお話を伺ったので、後日お伝えしたいと思います。(風)

みかん収穫体験行ってみました

昨年12月1日(日)、錦城探究学習の一環で、生徒有志が小田原市のみかん農家を訪れた。錦城54回生で、規格外農産物を使ったアイスクリーム「Ice cream」ブランド設立などをプロデュースしている岸はつみさんのご縁で、企画された。

訪れたのは小田原市JR早川駅から車で10分ほどの中島さんのみかん農園。記者を含め錦城生2名と先生、慶応義塾大学SFCの大学生2名が参加した。青い海と緑の木々、オレンジ色のみかんのコントラストが映えるなか、みかん農家の中島さんから話を伺い、実際に「天津」という品種を収穫体験した。

もぎたてのみかんは香りが広がり、皆口々に「甘い！」「皮が剥きやすい」「おいしい！」と歓声を上げる。中学の時の資料集で見た、斜面を活用した運搬モノレールも実際に見ることができ、貴重な体験となった。「最近是小さいみかんが好まれていますが、大きくなっても十分甘い品種なので、大きいみかんも食べてくださいいね」と笑顔で中島さんは説明してくれた。

みかん収穫体験後、岸さんが「Ice cream」を持ってきてくれて、皆で実食した。記者は初めて「もうごしミルク」をいただいたが、濃厚なうまみと甘味に感動。岸さんは、大学1年生の時に所属していたボランティアサークルで愛媛県のみかん農家を手伝ったことをきっかけに農業に興味を持ったそうだ。農業法人でイベントや商品のプランニングを経験し、ブランドを自分です立ち上げて、現在活動されている。岸さんに学校でもお話を伺ったので、後日お伝えしたいと思います。(風)

「思わず見とれてしまいました」 バレエ『くるみ割り人形』を錦城生が鑑賞

昨年12月27日(金)、東京文化会館大ホールで行われたCHINTAI クラシック・スペシャル ジョージア国立バレエ『くるみ割り人形』鑑賞会に招待され、希望した錦城生が参加した。参加した小幡愛珠さん(2A)に、公演の様子を伝えてもらう。

私は、音楽をやっているのですが、バレエをみてみたかったのと、部活で「くるみ割り人形」の曲をやっていたので、バレエのバージョンをみてみたいと思って申し込みました(以下全てです)。文化会館は、オーケストラピットがあり、生演奏付きというのも魅力的でした。3階席から見たので、オーケストラピットがよく見えて、管楽器や打楽器が入って音色が増え、より華やかになって、曲の雰囲気により出るのがいいと感じました。踊りで印象に残ったのは、金平糖の精たちが踊るグラン・パ・ドデュ。ゆっくりとした曲調で、男女間での息の合った踊り、指先、足先まで意識された言葉に表せないほどの優雅な動きに思わずみとれてしまいました。

有名な「花のワルツ」では、ホルン、クラリネットの華やかな音と、サビの弦楽器のメロディーとハーモニー、そして、なんでも練習したチェロのメロディー、大勢のバレエダンサーのぴったり合った動きすべてに圧倒されました。バレエは、曲、踊り、衣装、舞台セット、すべてがあわさった総合芸術。生演奏での迫力や、バレエダンサーの踊りなどすべてを楽しむことができたいい機会でした。



公演を締めくくるカーテンコール

(小幡)